

桜縁



自主創造
日本大学

あなたとともに
100万人の仲間とともに

特集 ● これぞ職人魂

特別取材 ● 佐渡ヶ嶽部屋 大関 琴光喜 啓司

特別寄稿 ● メタボリックシンドロームについて 医学部助教 上野 高浩

先輩にインタビュー ● JICA 芦野 誠

連載 ● 袖すりあうも

東京都 / 日本料理 車屋

福岡県 / 久留米 萃香園ホテル

首長に聞く ● 夕張市長 藤倉 肇

まだまだ修業中 ● 高根沢町役場 渡邊 正道

こんな校友もいます

● 弁護士 池田 和司 ● 歯科医師 信田 有一



第49回公演「縁、照り返す刀」に出演する日本大学芸術学部殺陣同志会

CONTENTS

特集	
これぞ職人魂3	
(有) アイゼンイッテツ/一鐵 安司さん	
(有) 万玉/伊良原 暢夫さん	
(株) めのや/新宮 正朗さん	
鶴川楽器/鶴川 勇之介さん	
特別取材8	
目標は「大関としての優勝」。これだけです。	
佐渡ヶ嶽部屋 大関/琴光喜 啓司さん	
特別寄稿10	
メタボリックシンドロームについて	
医学部助教 腎臓内分泌内科/上野 高浩先生	
先輩にインタビュー12	
独立行政法人 国際協力機構(JICA)/芦野 誠さん	
聞き手 国際関係学部/上原 加奈さん	
連載 ●袖すりあうも	
お店紹介	
東京都/日本料理 車屋14	
お宿紹介	
福岡県/久留米 萃香園ホテル15	
支部・部会紹介.....16	
首長に聞く18	
夕張市長/藤倉 肇さん	
まだまだ修業中19	
高根沢町役場 渡邊 正道さん	
こんな校友もいます	
弁護士/池田 和司さん.....20	
歯科医師/信田 有一さん.....21	
イベント情報.....22	
校友会ニュース.....24	
書籍紹介.....26	
お知らせ/掲示板.....27	

「桜縁」の由来

日本大学(桜)と校友の皆さんとの縁を深めるだけでなく、校友の皆さん同士の縁も大切にしたいコミュニケーション誌を目指して、「桜縁(おうえん)」と名付けました。また、校友の皆さんに母校の教育・研究活動や後輩たちの学術・文化・スポーツ活動を「おうえん」(応援)してもらいたいという意味も込められています。

本学は総合大学とはいえ、キャンパスも離れているし、なかなか相互交流が取りにくかったのですが、最近、総合学術情報センターの通信衛星を使った遠隔授業や、単位互換制度もでき、学部間交流が深まりつつあります。校友の皆さんも卒業してから学部間交流ができるように、この会報は、年齢層はできるだけ幅広く、学部・学科の枠を超えて一人でも多くの校友の皆さんを紹介していきたいと思っています。

IT(情報技術)が発達し、インターネットのホームページや電子メールでの情報伝達が増えていますが、この会報「桜縁」を持って、紹介する校友のお店などをふらりと訪ね、自分も日大の卒業生だと話しかけてみるのも良いのではないのでしょうか。きっと日本大学の話で盛り上がり、新しい縁が生まれるはずですよ。この会報をどんどん活用して、桜の縁が広がっていくことを願っています。



我が殺陣同志会は、1958年に日本大学芸術学部演劇学科の学生数名によって結成されました。現在では、演劇学科のみならず様々な学科から部員が集まっています。

毎年行われる「芸術祭」公演をはじめとするいくつかの舞台で、立ち廻り(主に日本刀を用いて)を披露し、それに向けて毎週4日、稽古を行っています。文化部連盟に所属し、単なる身体運動ではなく刀を用いた身体表現を目指しています。

今年は男子9名・女子12名の総勢21名で稽古に励んできましたが、先日行われた公演で4年生が引退し、実質16名となりました。来年も新たに、元気な新入生を迎えられることを願い、また来年は結成50周年となるので、それに恥じぬよう日々精進していきたいと思っています。

(日本大学芸術学部 殺陣同志会会長・神津 一誠)



長きにわたって、人々に親しまれ、愛され続けること。

言葉にするのは簡単だが、それを叶えるのは、決して容易なことではない。

移りゆく時代の中で、揺らぐこと無い「こだわり」を。

過ぎゆく歴史から、迎える未来に伝える「技」を。

それを手にした人々の笑顔の向こうに、物作りの「真」を見出す。

いつの日にも、人々に親しまれ、愛され続けているもの。

その傍らには、先人の知恵と人々の笑顔、そして、たゆまぬ努力を

重ねた者だけが手にすることのできる「匠」の技と心意気が息衝いている。

特集

これぞ

職人魂

決して変わらない。代わらないものがある。



有限会社 万玉
代表取締役
伊良原 暢夫さん
(昭和39年法学部法律学科卒業)

(いらはら・のぶお) 昭和16年福岡県生まれ。昭和39年卒業後、「日本コンクリート工業」に就職。平成8年からは、同社に就業しつつ、家業である「万玉」の経営にも携わり、2足の草鞋で奔走。平成13年より、福岡へ帰郷。「万玉」の代表取締役として就任。現在に至る。伊良原さん一族は、暢夫さんの祖父、父、叔父、従兄弟たちも本学のOBであり、長男 裕介さんも日大藤沢高校を卒業された「日大ファミリー」。裕介さんは、平成14年に「居酒屋 万玉」を開業。梅を用いた創作料理に腕を振るっている。

TEL 093-521-7397 <http://www.mangyoku.jp>



素材の味を生かした懐かしくやさしい酸味。
幼少時代と変わらぬ味を今に伝える。

「万玉」の歴史は、昭和26年に創業した料亭に始まります。当時はまだ、戦後の食料難の暗影が尾を引くご時世。その中で、料亭に足を運んでくださるお客様への感謝の気持ちを込め、酒の付け出しとして自家用に造っていた練り梅を出したのが「鶯宿梅」の起源となっています。

「鶯宿梅」は、秘伝の減塩製法で漬けた3～4年物の紀州和歌山山田産南高梅の、種と皮を取り除き、裏漉ししたものに、北海道産の茶毘布で風味付けをした練り梅。その名は、「大鏡」に登場する句に由来しています。一かの日暦年間、御所清涼殿の梅が枯れたのを知った村上天皇が、紀貫之の娘の庭に咲く美しい紅梅を移植しようとした際、その梅を慈しんで育ててきた娘は、それを深く哀しみ、次の句を記した短冊を枝につけて献上したそうです。

「勅なればいともかしこし 鶯の宿はと問はば いかが答へむ」恐れ多くも天皇のご命令ですので、私はこの梅を献上いたします。が、この梅を住処とする鶯に「自分の家はどこか?」と尋ねられたら、何と答えればよいのでしょうか。

これを読まれた天皇は、その風流に感動し、梅に「鶯宿梅」と名づけて元に戻されたかと伝えられています。娘の梅への愛と、私たち万玉の梅へのこだわりが相通するものを感じ、「鶯宿梅」と名づけました。



有限会社アイゼンイッテツ
一鐵 安司さん
(昭和50年芸術学部写真学科卒業)

(いってつ・やすし) 昭和27年北海道生まれ。先祖が石川県の剣(つるぎ・現在は鶴来)で加賀前田藩の御用鍛冶を営む。明治38年に北海道へ移住し、明治40年から鍛冶技術を活かした漁具の製造を始める。昭和に入り(株)一鐵鐵工所が設立され、平成9年に(有)アイゼンイッテツが分離独立。一鐵氏は工場での工程管理をする傍ら、小樽の街の美しい風景を撮り続け、現在では趣味を超え、北一硝子三号館 九番倉内にて作品を展示中。

TEL 0134-62-7951 <http://www.12.ocn.ne.jp/~aizen/>

いませんでした。

この会社は、鍛造アンカー(錨)の製造の他、養殖施設や生け簀を作っていますが、僕の役目は、鍛造作業の進行の管理が主です。漁業あつての仕事ですから、いつも漁師と連動しています。秋の定置網漁に向けて夏が一番忙しいでしょうか。海底に網を固定する錨の製造です。待たなしの中、従業員みんなと力を合わせて納期どおりに納品したときは、やっぱり嬉しいですよ。

今いる職人の最低年齢は45歳。すぐに一人前になれる仕事ではないので、一番の課題は、後継者をどう育てていくかですね。「鍛造」は鉄を焼いて生成する技術ですが、今の若い人たちが敬遠する「3K」が凝縮された職場。入社してきても長続きしないですよ。

今は刀こそ造っていませんが、基本的な鍛冶の技術は昔から変わりません。刀鍛冶の技術伝承に向け、子ども達や若い世代が興味を持ってくれるよう努力していきたいです。



先祖は加賀藩の刀鍛冶
伝統技術を漁業にいかす

先祖は元々、石川県にある鶴来(つるぎ)という街で、加賀前田藩の御用鍛冶を営んでいました。「一鐵」という苗字は、藩からもった名前です。明治に入り、廃刀令が施行されてその仕事が減ったことで、しばらくは鍬(くわ)や鋤(すき)、鎌(かま)などの農具を作る百姓鍛冶をしていました。その後、小樽市に住み着き、これまでの鍛冶技術をいかして明治40年から漁具の製造を始めたんです。先代は帆立をとる道具を独自で開発し、それは近海に帆立がいなくなると言われるほど、評判がよかったです。当時は相当儲けたみたいですね。(笑)

昭和28年に(株)一鐵鐵工所ができて、平成9年に次男が(有)アイゼンイッテツを設立、分離独立しました。

僕は昔から写真が好きだったので、日大の芸術学部写真学科に入ったんです。卒業後は大学の先輩たちが多いサンケイスポーツに、1年半ぐらい勤めたかな。次男は東洋大学ですから、僕が写真学科を出たという、皆さん驚かれますね(笑)。現在、写真は趣味ですが、小樽に住んでいる特権を活かして街の何気ない風景を撮り続けていたら、偶然、北一硝子の社長が僕の写真を気に入ってくれて…。今では北一硝子にフォトギャラリーと絵葉書を置かせていただけるようになりました。

僕は7人兄弟の末っ子だったので、他の兄弟と違い、若いうちから好きなことをやらせてもらいましたね。でも、田舎に帰って家業を手伝う気でしたから、その他の職業を長くやろうとは思って



鶴川楽器
8代目店主
鶴川 勇之介さん
(昭和52年農獣医学部林学科卒業)

(つるかわ・ゆうのすけ) 昭和29年東京都生まれ。卒業後、江戸時代より続く家業「鶴川楽器」を後継すべく、埼玉県「みつや琴製造株式会社」で3年に渡って、琴製造の知識・技術の修行にでる。鶴川楽器は、琴の販売および調整を主としているが、琴の構造や琴に用いられる桐材の質・特徴などを知ることが重要であるという同社の理念に基づいて、桐材の裁断から製品化まで一連の製造技術を習得。昭和56年、鶴川楽器へ戻った後は、調律などの技術にさらなる磨きをかけ、現在、邦楽界に欠かせない「琴の匠」として活躍している。

TEL 03-3703-1872 <http://home.b07.itscom.net/tsuru/>

今日の邦楽界で普及している、琴線が太く姿が大ぶりな低音琴や大型の胡弓は、宮城先生と5代目の共同開発によるものです。また、6代目・喜兵衛は、宮城先生が演奏で全国をまわられる際、琴の糸締め師として行動を共にし、先生が亡くなられた列車にも同乗していたほど懇意なお付き合いをさせていただいたそうです。こうしたご縁をきっかけに、現在も、宮城先生が設立に尽力された東京芸術大学邦楽科や、NHKの邦楽器係などで、鶴川の琴をごひいきいただいていることをありがたく思っています。

実は、当店の9代目となる予定の息子・大騎も旧大出身なんです。現在は、以前、当店の番頭を務めてくださった方が開業した邦楽器匠で修行をさせてもらっています。息子が一人前の職人に、また、頼もしい9代目となるまでにはもう少し時間がかかりそうですが、今は、その成長を楽しみに見守っているところです。機械製造による廉価な琴も数ある中で、鶴川の琴を求めてくださるお客様は、「いい音」を求めていらっしゃるということ。鶴川の音を求めるお客様がいらっしゃる限り、その思いに、ありがたく応えていきたいと思っています。



※ 注釈1: 琴を数える単位には、「面」が用いられる。



“鶴川の音”を求め、
名士・弾き手とともに歩み続けて百余年。

当店は、天保4(1833)年以前に東京・京橋で開業した、主に琴を扱う邦楽器匠です。平成2年に、東京・世田谷の九品仏に店を移してから、早17年を数えます。過去帳によれば、大名の下屋敷に出入りしていた記録をはじめ、明治19年に上野不忍池の弁財天に唐金の琵琶を奉納した際の発起人14人に、3代目・政五郎の名が連ねられるなど、百余年にわたる長い歴史を持っています。

鶴川の琴は、すべて手作り。創業以来、その踏付け(桐の裁断)から琴糸貼りまで、ひとりの職人が一環して、一面一面(※注釈1)手作業でおこなっています。以前は複数あった流派も現在は統一され、琴の大きさこそ決まっていますが、調整・調律には何ら決まり事はありません。職人が、弾き手の弾き方や好みを踏まえ、自分の目と手、勘を頼りに作業をおこなうので、その作業を言葉で説明しようとしても、うまくお伝えできないのが本当のところ(笑)。

素材は、福島県・奥会津の桐を使用しています。人里離れた雪深い山奥で風雨にさらされて育った奥会津の桐は、木肌のしまりが良く、木目も独特。桐箆筒などに用いる桐は、綺麗にそろった木目が好まれますが、琴では、幾何学模様のような複雑な木目や、花や雲を思わせる木目など、唯一無二の特長的な木目が好まれますね。

当店の歩みをお話するうえで欠かせない方が、宮城道雄さんです。従来、琴のみを扱ってきた当店が、5代目・新兵衛の代から三味線・胡弓を扱うに至ったのも、宮城先生の助言がきっかけです。



株式会社めのや
代表取締役
新宮 正朗さん
(昭和46年商学部経営学科卒業)

(しんくう・まさあき) 昭和23年鳥根県生まれ。卒業後、東京の宝石店「山崎」に入店し、2年間に渡って宝石の販売等を学ぶ。その後、実家であるめのや新宮に入店。職人として勾玉作り、石磨きの技を修業。当時は、帯留めやかんざしなどの装身具が中心だったため、その製品において、箸置きや皿を作るなど、新しい製品作りにも挑戦した。昭和60年にいすもめの細工 伝承館をオープン、平成3年有限会社めのやを設立、平成11年アナヒータストーンズの事業をスタート。平成14年出雲大社宮司第84代出雲国造新任の折、宮中に献上する「御統玉」を制作。

TEL 0852-62-2414 <http://www.magatama-sato.com>

く伝承館として店を作ったのです。職人の手業をご覧いただけるよう工房をガラス張りにしたり、勾玉作りの体験講座を開くなど、皆さんに親しんでいただける工夫を凝らしています。

さらに、平成11年には勾玉のほか、めのや水晶などの製品を扱う「アナヒータストーン」をスタート。これは現在全国50か所に展開しています。どうも、めのや水晶などはダイヤモンドといった宝石に比べるとランクが低い。そこで、メジャーになれない石を集めよう。それに勾玉をより全国へ広めたいという思いもありましたので。今では、これらの石や勾玉はパワーストーンとして、若い人の注目を集めています。

とはいえ、伝統工芸の置かれた状況は決して明るいものではありません。私自身、20年ほど職人として勾玉作りに取り組んできましたが、簡単には身に付かず根気のいる仕事です。現在は4人の職人が技術を磨いていますが、1500年前の伝統の技をきちんと残すその一方で、新しいことにも挑戦できるよう、応援していきたいと思っています。ゆくゆくは、かつて勾玉が出雲から全国に広がったように、海外にも広めていければ、それが私の大きな夢です。



時代を見据えた新しい事業を展開しつつ、
1500年に渡る勾玉作りの技を守り続ける

ここ玉造は、1500年前から勾玉作りが行われていた場所です。勾玉は古代より装身具や埋葬の際の副葬品として用いられたと言われるもので、玉造の勾玉は、出雲大社の宮司様が新任される際に御挨拶の品として天皇家へ献上されてきました。一時期、この風習は途絶えましたが、明治に入ってまた復活し、現在の宮司様新任の際には、出雲大社より注文を受けて私どもで勾玉をお作りしました。この勾玉の材料となるのがめのやです。

「伝承館」は、明治30年に「めのや新宮」として創業しました。勾玉作りを中心に、めのやを用いた装身具の製造・販売を行ってきました。14軒ほどあっためのや屋も現在は当社のみ。出雲の勾玉作りの技術を伝えるのも私たちだけとなってしまいました。1500年前から伝わる勾玉作りの伝統を絶やさないためにも、この伝承館を守っていかなければならない。それがまず、私の使命だと思っています。

伝統を守るためには、時代の流れに合った手立てを講じていくことも必要です。実はこの伝承館を立ち上げたのも、その一つ。めのや新宮は創業時より温泉街の中に店を構えてきましたが、旅館の大型化でお客様の出足が減ってきてしまった。より多くのお客様にお越しいただけるよう、昭和60年、宍道湖の近くに新し

目標は「大関としての優勝」。これだけです。



佐渡ヶ嶽部屋
大関
琴光喜 啓司さん
(平成11年経済学部経済学科卒業)

(本名・田宮啓司) 昭和51年愛知県生まれ。小学生のときから父親の影響で相撲を始め、あっという間にその才能を開花。強豪・鳥取城北高校2年の時には高校横綱となるほどの活躍をみせる。本学在学中には27個のタイトルを獲得し、相撲の名門、佐渡ヶ嶽部屋へ入門する際には、大きな話題となった。平成11年3月場所、本学同期の加藤(後の高見盛)、高濱(後の演錦)とともに初土俵。負け越し知らずの快進撃を続け、平成12年5月場所において、初土俵からわずか8場所で新入幕。平成13年9月場所では、幕内在位7場所目という異例のスピードで幕内優勝を飾った。その後、怪我や入院に苦しみながらも、ついに平成19年7月場所において、悲願でもあった大関昇進を決める。日本人としては約5年ぶりの新大関の誕生は、日本中の相撲ファンをおおいに喜ばせた。歴代最年長の新大関として臨んだ9月場所では10勝5敗の成績を残し、ますます今後の活躍が期待されている。



琴光喜関が所属する佐渡ヶ嶽部屋。松戸市内の閑静な住宅街にあって、相撲部屋ならではの重厚な雰囲気を感じさせている。地元では知らない人はいない有名スポットだ。
<http://www.sadogatake.com>

■相撲が好きになったきっかけは「相撲祭り」

——まずは大関昇進と9月場所の勝ち越し、おめでとうございます。念願の大関昇進後、一場所経験された現在の心境は？

新大関として臨んだ9月場所は10勝5敗と、なんとか2ヶ場所勝つことができました。でもこれは大関としては最低限のこと。やっぱり、場所前の目標だった優勝争いに絡むことができなかったことが悔しくもあり、残念でもあります。大関になってからは、やっぱり変な相撲は取れないなあということを日々実感しています。もちろん「負けられない」という気持ちも強くなりましたしね。そういう意味でのプレッシャーは感じています。

——大関は小学校の頃から相撲を始められたとのことですが、始められたきっかけを教えてください。

父親がアマチュア相撲をやっていたこともあり、直接的なきっかけは、父親の実家の高知で開催されていた「相撲祭り」です。勝ったらお菓子がもらえるので、それが嬉しくて試合に出場しているうちに、自然と相撲が好きになっていったんです。それでも最初は負けることが多かったですね。小学校1年生のときに出場した、地元岡崎市での相撲大会でも1回戦で負けてましたからね(笑)。

■厳しかった日大相撲部時代

——その後中学・高校と大活躍された大関ですが、日大を進学先に選ばれた理由は？

一番の理由は高校の相撲部の先生が日大のOBだったことです。正直言うと日大に進学するのは、ちょっと嫌だったんですよ(笑)。すごレベルが高くて、厳しいと聞いていたので。やっぱり厳しいところよりもやさしいところに行きたいと思うのが人情でしょ。でも、「日本一になりたいんだったら、日大に行かなければダメだ」という先生の言葉に背中を押されるような格好で、日大に進学したというわけです。

——日大相撲部では27個のタイトルを獲得。飛躍的に才能を開花されましたが、どのような学生生活でしたか？

稽古自体はそれほど厳しくはなかったですね。でも、やっぱりすごレベルが高いので、稽古や試合の一番一番が自分にとって大事なものでした。とにかくレギュラーになること自体が大変でしたから。そんな感じで、学生生活はとにかく相撲中心の毎日でした。それでも外出が許される3年生になったら、相撲部のみんなとよく飲みに出かけましたね。特に誰かの誕生日なんかには「誕生日会」と銘打って、とにかくたくさん飲みました。また、学生選手権などの大切な試合の前には、相撲部の田中監督の奥さんが経営されるちゃんこ屋にも毎日通わせてもらい、大会が始まるまでの1ヶ月間、夜食をおなかいっぱい食べさせてもらったりもしていました。

学生時代を振り返って一番印象的だったのは、4年生の時の学生選手権の団体戦で負けたことですね。入学以来、ずっと優勝し続けていたのに、自分の代になって、しかも自分がキャプテンをしているときに負けたという衝撃は大きかったですよ。しばらくの間、負けたこと自体が信じられませんでしたからね。

■一番の目標は大関として優勝すること

——相撲を始めてよかったこと、苦しかったことは？

よかったことは、やはり長年の夢だった大関になれたことに尽きますね。幕内優勝も経験できましたし。大げさに言えば、このまま死んでも悔いはいくらいの達成感を感じています。そういう意味では相撲を始めて本当によかったって思います。

とはいえ、なんとも大関取りに挑戦しては失敗していましたから、それは苦しみでしたね。でもなんといっても一番辛いのは怪我です。特に入院したときは辛かった。入院先の病院のテレビで、自分が休場した場所の中継を観戦しながら「なんで自分はここでテレビを見ているんだ？」と、いたたまれない気持ちになっていました。やはり相撲取りにとって、場所中に土俵に立てないことほど辛いことはないのではないのでしょうか。

——今後の目標を教えてください。

大関として優勝すること、それだけです。そのためにはもっと稽古



大関昇進の伝達式を終え若手力士に担がれ笑顔でガッツポーズ

を重ねて、強くなっていくことが必要だと思っています。優勝という目標を達成するためには、最終的には稽古しかないですから。——最後に「桜縁」読者にメッセージをお願いします。

自分は大学時代、相撲しかやってこなかったもので、あまりたいしたことは言えないのですが、とにかく夢をあきらめないでほしいと思います。夢を追うのに、年齢は関係ありません。自分もいろんな経験を積んだあとに、ようやく大関という夢にたどり着くことができました。ですから、日大の在校生、卒業生のみなさんも、あきらめずに自分の夢を実現させてください。



朝稽古を終えた後、にこやかにインタビューに応じる琴光喜関

メタボリックシンドロームについて



医学部助教 腎臓内分泌内科

上野 高浩 (うえの・たかひろ)

【略歴】昭和62年日本大学医学部医学科卒業。平成3年日本大学大学院医学研究科(内科学)博士後期課程修了。同年本学医学部第二内科助手、平成10～14年モントリオール大学医学部付属病院分子医学教室研究員、平成16年本学内科学講座腎臓内分泌内科学分野助手、同年本学医学部附属病院腎臓内分泌内科医長、19年本学医学部内科学系腎臓内分泌内科学分野助教
【学会活動】日本動脈硬化学会評議員、日本臨床生理学会評議員、日本SHR学会評議員、分子生理研究会幹事

【研究テーマ】1.メタボリックシンドロームモデル動物の内臓脂肪組織遺伝子発現の解析 2.メタボリックシンドローム患者における生体内時計遺伝子の変動に関する研究 3.メタボリックシンドローム患者の脂質代謝異常を規定する遺伝子探索 4.新規遺伝子治療薬PIボリアミドの動脈硬化性疾患治療薬としての開発 5.動脈硬化性疾患と酸化ストレス関連遺伝子の解析。

【著書】ω3脂肪酸と動脈硬化(現代医療)、高脂血症と治療の実際(産婦人科治療)、アポB異常の遺伝子診断(The Lipid)、メタボリックシンドロームの診断と治療ターゲット探索の現況(日大医学雑誌)、脂質代謝障害(臨床透析)。

“メタボリックシンドローム”“メタボ”などの言葉はマスコミにも盛んに取り上げられ、多くの方が“怖い病気らしい”とか“やせた方がいい”などと認識されていると思います。一方では、あまりにも取り上げられすぎて“うるさいなー、やせた方がいいなんてことは前から知っているよ”などと思われる方々もいらっしゃるかと思います。ですが、この“メタボ”は本当に危険で見過ごすことのできない病気なのです。

“メタボリックシンドローム”という病気は新しく発見された病気ではなく、その概念は80年以上前から提唱されていました。それが最近盛んに取り上げられるようになったのは、メタボリックシンドロームが心筋梗塞や糖尿病といった病気の原因となっていて、日本人にも非常に多いということが明らかになってきたからです。

では、メタボリックシンドロームとはどのような病気なのでしょう。一言でいえば「おなかの中に脂肪がたまった状態」です。典型的なのは、おなかかまこんと丸く飛び出してベルトに乗っている「お父さんのビール腹」です。しかし、そこまで極端でなくても「最近おなかのまわりが太くなってきたな」というような状態でも要注意です。これらは内臓脂肪が貯まっていることを示しているからです。最近の研究で内臓脂肪が糖尿病、高血圧、高脂血症などに陥らないように調節する働きを担っていることがわかってきました。その重要な内臓脂肪組織に余分な脂肪が貯まってしまうと調節機能が損なわれて糖尿病、高脂血症、高血圧となってしまう。これがメタボリックシンドロームなのです。

メタボリックシンドロームの怖いところは、何の症状も出てこないというところにあります。これは、「メタボリックシンドロームの人は、おなかの中に時限爆弾を抱えている」と例えられます。メタボリックシンドロームの患者さんは、おなかには出ていますが他には何の症状もなく、毎日楽しく仕事をして、飲んで、食べている普通の方々です。その元気な方がある日、突然おなかにかかえていた

メタボリックシンドロームの診断基準

腹腔内脂肪蓄積
ウエスト周囲径 男性 $\geq 85\text{cm}$
女性 $\geq 90\text{cm}$
(内臓脂肪面積 男女とも $\geq 100\text{cm}^2$ に相当)

上記に加え、以下の3項目のうち2項目以上を有する場合にメタボリックシンドロームと診断する。

高トリグリセライド血症 $\geq 150\text{mg/dL}$
かつ / または
低HDLコレステロール血症 $< 40\text{mg/dL}$ 男女とも

収縮期血圧 $\geq 130\text{mmHg}$
かつ / または
拡張期血圧 $\geq 85\text{mmHg}$

空腹時高血糖 $\geq 110\text{mg/dL}$

※高TG血症、低HDL-C血症、高血圧、糖尿病に対する薬剤治療を受けている場合は、それぞれの項目に含める。

メタボリックシンドローム診断基準検討委員会 2005.4.8

注:トリグリセライドは中性脂肪と同義語で、健診結果などではどちらかが使われている場合もあります。本文中では中性脂肪という表現を使っています。

時限爆弾が爆発するように、心筋梗塞で倒れる。これがメタボリックシンドロームが引き起こす最終的な結末です。では、そうならないためにはどうしたらいいのでしょうか?それは、おなかにかかえている爆弾(=内臓脂肪)を早く手放すことです。

“減量が必要なことは解っていても、とてもできない”という方も多いかと思いますが。確かに努力を要しますが、脂肪の中では内臓脂肪は減りやすい脂肪だということがわかっています。食事、運動療法を併用すると最初に減少してくるのは内臓脂肪です。80kgの方が5%体重を減らすと4kgの内臓脂肪が取れることとなりますが、これはかなりの量です。ですから5%程度体重を減らすだけでもメタボリックシンドロームの症候である高血圧、高脂血症、糖尿病には十分効果があるということが分かっています。減量には食事療法が必要ですが、この時必ず運動を併用することも重要です。食事制限のみを行うと、体重が減少しても最初に減るのは筋肉であり、脂肪は保持されるからです。適度の運動とカロリー、糖質、脂質の制限を中心とした食事療法を併用することで、半年間に5%の減量を目指しましょう。

治療のキーワードは、“己を知る”ということです。へその高さでのウエスト径を測ってみて男性85cm、女性90cmを超えてい

たら要注意(日本人の成人男性の半分は超えています)。健診などの機会に血圧、中性脂肪、血糖を測りましょう。ここで大切なのは、空腹で検査を受けることです。食事をした後で採血すると血糖、中性脂肪は空腹時の値より高く出てしまいます。そして、メタボリックシンドロームに入ってしまった方はもちろん、診断基準は満たさないがウエストが基準を超えているか、それに近い方も毎日体重を測りましょう。毎日体重を測って、それを記録することで、自分がどういう生活をしたときに体重が増え、どうすれば減るかが徐々に把握できるようになります。自分の体重の変動する要因を把握することが、そのコントロールにつながるのです。

これが第一歩。それからは、自分の生活習慣を把握しましょう。食事の時間、内容、飲み物を含めた食事以外の時間に口にしているものの内容、運動、一日に歩く歩数などです。メタボリックシンドロームの治療は、その方の生活習慣が、肥満にならないための理想の生活と、どこがどれだけずれているかを把握することが重要なのです。“ずれ”を発見して、それをできるだけ修正します。まずは始めること。みなさん、時限爆弾を手放すための第一歩を踏み出しましょう。

学生が先輩にインタビューする企画です!



先輩にインタビュー

ひとつひとつの仕事を着実に実現した先にある達成感。
それが、自分自身の原動力に、自信になっていくのだと思います



●独立行政法人国際協力機構(JICA)
経済開発部第二グループ 資源省エネルギーチーム長

芦野 誠さん

(昭和57年理工学部交通工学科卒業)

(あしの・まこと) 昭和33年岡山県生まれ。卒業後、タイの大学院大学「アジア工科大学院」で構造力学の修士を取得。昭和59年、(株)建設企画コンサルタントに就職。昭和61年よりJICAへ転職。平成2年から4年間、同タイ事務所へ赴任。平成6年に帰国し、道路のインフラ調査を行う同社会開発調査部、グローバルイシューを扱う環境・女性課などを経て、平成14年、同トルコ事務所次長、平成17年より資源省エネルギーチーム長に。今年10月からは、同イラン事務所長として赴任している。

地球環境問題にフォーカスが集まる昨今、世界最先端の省エネルギー技術を有する日本。その技術を広く普及すべく、開発途上国をはじめ、世界を股にかけてJICAの顔として活躍する芦野さんに、将来国際ボランティア活動に携わることを目標としている国際関係学部国際交流学科3年の上原加奈さんが直撃インタビュー。

恩師との出逢い、開発途上国の発展のために
尽力する日本人エンジニアの姿に心を打たれました。

——国際協力事業に興味を持たれたきっかけを聞かせてください。

在学時に入っていたゼミの指導教官だった故川口昌宏先生が、開発途上国の援助に積極的な方だったんです。3年のときに、開発途上国における建設・土木の現場を知るために、インドネシアやマレーシア、タイ、シンガポールを2週間かけて巡ったんですが、現場で働いている日本のエンジニアの方々の姿が、とてもまぶしく格好良く映ったんですよ。それが、興味を持ったきっかけでしたね。

インドネシアのスマトラの山奥で、子どもたちが裸足で走り回っ

たり、焼畑農業をしていたり、物売りや闇の個人両替商なんかがいる、私たち(外国人)をみるとワーッと寄ってきたりしました。そのさらに奥では、日本のゼネコンによるダム建設が行われていて、多くの日本人エンジニアが住み込みで働いていました。あまりに衝撃的な光景だったので、今でも鮮明に覚えています。それまで日本での生活を“標準”として生きてきたわけですから、そのときのカルチャーショックは相当なもので、実は、最初の3日は食事が喉を通らなくて寝込んだんですよ(笑)。

——実は、私が国際協力事業に興味を持ったのは、JICAの理事長・緒方貞子さんがきっかけで、とても尊敬しているんです。緒方さんの存在や影響力について、同じJICAにいらっしゃる芦野さんがどう思われているのか、ぜひ伺いたいです。

一番強く感じるのは、すばらしい牽引力をお持ちの方だなということですね。現在、JICAは、「人間の安全保障」「アフリカ」という2つのキーワードを掲げて国際協力事業を展開しているんですが、緒方さんがいらしてからは、その牽引力によって、外務省をはじめ事業に関連する組織とのやりとりが、より円滑になったと思います。

日本が有する世界最先端の省エネ技術を世界に。
重要な業務に大きなやりがいを感じています。

——イラン赴任前までは、省エネルギー分野のお仕事に携わられていましたが、具体的にはどのようなお仕事をなさっているんですか?

今年の6月、ドイツでG8サミットが開催され、地球温暖化対策についての議題が大きく扱われましたよね。世界中で地球規模の問題が叫ばれていますが、日本は、省エネルギー分野において世界一の技術を持っていると言われているんです。私の最近



の業務は、その技術を、JICAを通して開発途上国に普及させ、温室効果ガスの削減を推進しようというプロジェクトの形成・運営。具体的には、この地域では、こういう省エネ技術を導入すればよいのではないかといった提案を、JICAの代表としてさまざまな国に向いて日本の省エネ技術協力について講演をしたり、国際会議に参加させてもらったりしています。重要な役割を目の前にして、ただでさえ緊張しているうえに、スピーチやディスカッションは全て英語ですから、毎回、冷や汗をかきながらなんとか務めているといったところです。

——世界を舞台に活躍されてきた芦野さんですが、強く印象に残っているお仕事があれば、ぜひ聞かせてください。

私のバックグラウンドは、交通や土木の分野。社会開発調査部に在籍し、コンサルタントによるフィージビリティスタディーを監理・運営していた際、開発途上国で日本政府が展開するいくつかの橋の建設に携わりました。特に印象的だったのは、エジプトのスエズ運河の架橋。300mを超える川幅で、瀬戸大橋ほど大きくないのですが、その橋の下を客船や航空母艦が通るので、70mの桁下高を設けなくてはならなかったんです。瀬戸大橋の桁下高を超える世界最大の橋げたを設けたり、架橋地点の絞込みなど、日本政府とエジプト政府の交渉についての“架け橋”

を務めるという仕事でした。

——すごいですね! その頃は、どんな毎日を過ごされていたんでしょうか?

当時この案件のために年に4~5回は、7日程度のタイトなスケジュールで現地に向っていました。到着後は、ほとんど寝る間もなく、エジプト側と交渉をしていましたね。ハードな日程をこなしてやっとの思いで帰路についても、ロンドンでトランジット待ちをしている最中にJICA本部から電話が入って、「帰国したら、その足で外務省に行って話を詰めるように」とオーダーされて、あまりの多忙さにめまいがしたのを覚えています(笑)。でも、だからこそ大きなやりがいがありましたし、貴重な経験をさせてもらったと思っています。…砂漠を歩いていくと大きな橋が、壮大な弧を描いて浮かび上がっているあの美しい光景と、仕事を終えたときの大きな達成感は忘れられません。

——それだけご多忙な中で、高いモチベーションを維持し続けてきた芦野さんは、本当にすごい方だなと思います。

さすがに最近は、当時のようにハードな日々ではありませんが、責任ある仕事に携わり、計画をひとつひとつ着実に実現してゆく先にある人々の笑顔や達成感が、私の原動力になっているんです。10月から赴任したイランでも、よりよい環境を築くためのサポートに努めたいと思っています。

インタビューを終えて

聞き手 上原 加奈さん(国際関係学部国際交流学科3年)



将来、海外でボランティア活動したいと考えている私にとって、実際に国際協力の現場で働く芦野さんにお会いし、お話をすることができたことは、本当に貴重な体験になりました。とても気さくな人柄の方で、プロジェクトが成功し、橋を架けることが出来たことを嬉しそうに語る芦野さんが忘れられません。このインタビューを通して、改めて国際協力の大変さ、そしてその大変さにも勝るやりがいのある仕事であるということを確認することができました。私も国際協力に携われるように、これからもっと勉強し、自分の夢に向かって頑張りたいと思います。貴重なお話をありがとうございました。

OB・OGが経営している

お店紹介

東京都／日本料理 車屋

伊藤 親厚さん

(昭和37年商学部商業学科卒業)

文化人を魅了した味と空間を追求し続け、
未来につないでいきます

昭和初期のモダン喫茶が原点。多くの文化人が愛した店

「江戸時代に、人力車で荷物を運ぶ「車夫」たちが、休憩や食事をする場所がありましてね、そこから弊社の屋号「車屋」を取ったのです」と話すのは三代目の伊藤親厚さん。

車屋の始まりは喫茶店。西洋文化が日本に入り始めた昭和5年頃、新宿は、文化的な薫りのする人たちのたまり場だった。先代は紀伊屋書店の中に「武蔵野茶廊」という現在のブックカフェのような喫茶店を営み、その後「キュービドン」「どれすでん」などの酒場を開店させ、文豪たちが書斎代わりに利用したり、故岡本太郎氏などの芸術家や芸能関係者などが多く通いつめたという。

「昭和38年に兄が、「本格的な食事を」と、現在本店のある新宿コマ劇場の横に、日本料理屋を出店しました。現在、歌舞伎町といえば、世界でも悪名高い街として知られているが、当時は閑静な高級住宅地だった。今、官民一体となって新宿の再開発が進



●プロフィール

伊藤 親厚

(いとう・ちかひろ) 昭和14年東京都生まれ。株式会社伊藤商店代表取締役。卒業後、渡米。ネバダ州の首都リノでホテル研修などを通じ、海外でのビジネスの奥義を知る。結婚後、海外出店のため家族と共にグアム島へ。帰国後は「車屋」三代目として、系列会社が経営する店を含め、全国に17店舗を展開。

んでいることはご存じの事だろう。「玉石混合の新宿の特性を活かしたブロードウェイの様な街にしようと、私も地域の人たちと一緒に、張り切っていますよ」

おいさを追求し、激変する新宿の街で存在し続ける

昭和45年頃、グアム島の第一ホテルから出店依頼があり、伊藤さんは12年間、日本を離れた。「地元の人間になりきり、真剣に相手と向き合わなければ海外での成功はありえない。島のトップが目をかけてくれたお陰で、ビジネスの話も早く進みました」

現在、日本料理のほか、コンセプトの違う17店舗を展開する車屋。食の安全が叫ばれている昨今だが、昔から食材のこだわりはもちろん、お客様からの「おいしい」の一言に強くこだわる。「食材の善し悪しは必ず味に出ます。今、原油価格の高騰や、一部の国が大量に食材を買い占めるなど、世界的に仕入れ値が上がってきている。外食産業のかかえる問題は山積ですが、サービスの質を落とさず、おいしい料理を提供し続けたい」。様変わりする新宿の街で、新しい挑戦を続けている。



OB・OGが経営している

お宿紹介

福岡県／久留米 萃香園ホテル

4代目当主

川村 安正さん

(昭和49年商学部商業学科卒業)

創業125年の人 萃い 花香る園。
その歴史は、「もてなしの心」を磨いてきた歴史です。

歴史と革新、2つの魅力を併せ持つ老舗ホテル

福岡・久留米の地で、一世紀余。九州の雄として知られる老舗「萃香園」

江戸時代から伝わる日本庭園、訪れた賓客たちが残した銘書・銘品が並ぶロビーなど、重厚さを混えた歴史と趣。その傍らでは、平成に入り改築された華麗な大宴会場や独立型のチャペルが対照的な存在感を放つ。「当ホテルの歴史は、明治15年、川村安次郎が有馬藩鷹匠屋敷跡に開設した茶房「鶴盟館」に始まります。時の中国経済使節・王治本氏が、その眺望に感嘆し「萃香園」と命名くださいました。明治44年には明治天皇御用達となり、以降、皇太子殿下、秋篠宮殿下ご夫妻らも足を運んでくださっています。多くの文化人にも愛され、屋号を書いたのも、かの初代内閣総理大臣・伊藤博文公。ご皇族方、文化人方、全国からお見えになるお客様とともに、明治・大正・昭和・平成と4つの時代を歩



●プロフィール

川村 安正

(かわむら・やすまさ) 昭和25年福岡県生まれ。卒業後は「ツアー・スクール・オブ・ビジネス」でホテル・観光を学ぶ。その後、外資系「クラウン・パシフィック」で経理に携わる。昭和55年、同社を退職し福岡へ。昭和61年、「萃香園」代表取締役社長に就任。趣味はヨット。オークランド福岡ヤマハカップ準優勝(平成元年)。(社)日本外洋航海協会理事として国際外洋ヨットレースの運営にも尽力。

んでこられたことを光栄に思っています」

ウェディングやショーなど各種宴会場としても人気

宿泊施設としてはもちろん、ウェディングや披露宴、ディナーショーなど各種宴会場としての利用も多い「萃香園」。「平成4年に、創業当時からあった120畳の大広間を改築する際には、反対の声も少なくありませんでしたが、現在では、年間300組のウェディング、企業の催事や同窓会などさまざまにご利用いただいています」

また、優美な大日本庭園を臨みながら、季節感あふれる多彩な食を楽しむのも「萃香園」を語るうえで欠かせない魅力。旬の素材を用いた日本料理から、ヌーベルキュイジーヌ風の創作フレンチまで、充実のラインナップがくつろぎのひとときを豊かに彩ってくれる。

久留米の歴史と今を伝える、人萃い花香る園「萃香園」。福岡へ出向く際には、ぜひ一度足を運びたい銘宿だ。



●日本料理 車屋本店

昭和5年、先代が「武蔵野茶廊」という喫茶店を、新宿の紀伊屋書店内に開店したのが始まり。現在は日本料理をはじめとして、和洋、多彩な17店舗を全国に展開。
【営業時間】 平日11:30～14:30、17:00～22:00
土曜11:30～22:00、日曜祭日11:30～21:00
【定休日】 1月1日、12月31日
【交通】 JR新宿駅東口より徒歩約7分、
または西武新宿線西武新宿駅より徒歩約3分
【住所】 東京都新宿区歌舞伎町2-37-1
TEL 03-3232-0301 FAX 03-3232-0347
【URL】 <http://www.kuruma-ya.co.jp>

◎一口メモ

大切な集まりの席には、会席弁当、出張会席料理のケータリングサービスも利用できる。調理人が料理を整えて現地まで同行し、セッティングをしてくれる。

車屋ケータリングサービス

【住所】 東京都新宿区北新宿1-29-12
ワカホマンション1F
【TEL】 03-5332-5220
【営業時間】 10:00～22:00



●久留米 萃香園ホテル

【施設】 客室:26室/最大1800人収容の大宴会場など全12会場/独立型チャペル/和室料亭(最大30畳)など全3会場/駐車場完備
【交通】 お車で西鉄久留米駅、JR久留米駅より約5分、九州高速道久留米ICより約10分
【住所】 福岡県久留米市柳原町87
フリーダイヤル 0120-45-5351
【URL】 <http://www.suikoyen.co.jp>

◎一口メモ

「萃香園」の顔といえ、見事な滝や紅白の鯉たちが泳ぐ池を覆うように繋る樹々花々に彩られた日本庭園。高台に位置するため、川村さんが幼い頃には、庭園越しに筑後川に沿って咲く桜並木を眺められたという。現在は、独立型チャペルの増設や周辺環境の変化によって、桜並木こそ臨めないものの、ゆるやかな傾斜を描く美しき大庭園の趣と瑞々しさに、思わず心奪われるに違いない。

日本大学 工学部校友会

日本大学工学部は昭和22年に専門部工科として、郡山の地に設置されました。この地は戦前、日本軍の飛行場だった場所です。その後、昭和24年に日本大学第二工学部(昼間)として設置されました。当初は第二工学部と云う事で夜間部と間違われたそうです。ですから、わざわざ(昼間)とした様です。それから17年後の昭和41年に工学部と学部名を改称し、現在に至っております。校友会は最初「第二工学部土木工学科校友会」として昭和32年に発足し、翌年全学科を包含した「第二工学部校友会」に改称しました。校友会の役割として「会員名簿」の発行、「校友会報」の発行を中心に、校友会の事業を発展させてきました。現在は学部の好意により工学部50周年記念館(ハットNE)内に「校友会事務局」を設けております。我が校友会は全国に8支部を設けております。また、関東支部の下には6支会があり、各々活動しております。ユニークな支部としては「アカシア教育研究会」と云う支部がございます。アカシア支部は工学部を卒業し、学校(特に高校)の先生方で結成しております。この支部の先生方には、優秀な生徒を工学部に紹介して下さいとのお願いをしております。更に事業の柱としては「会員管理」を徹底しております。卒業生に対し、住所の変更等があれば、直ちに事務局への連絡をお願いしており、卒業生49,000人余の97%の住所を把握しております。

また、学部と協力して「母校を訪ねる会」を開催しております。これは卒業20年、30年、40年、50年の方々を招待しております。その時は出来るだけ同級会を開催して頂いています。毎年10月の第三日曜日に行われています。これらの他にも様々な事業を行っております。また、他学部との交流として、各々の総会に参加させていただいております。これからも他学部校友会の良い所を参考にさせていただき、当校友会も発展をしていきたいと考えています。

(日本大学工学部校友会会長 加藤木 研)



加藤木 研会長



平成19年度工学部校友会通常総会

日本大学校友会 川崎支部

川崎支部は、昭和28年11月に設立総会を行い誕生しました。半世紀を超える歴史をもっています。平成元年5月には創立35周年事業として、川崎在住の大先輩、元法務大臣泰野章先生をお迎えし記念事業を行い、更に平成15年6月には創立50周年の節目の年として実行委員会を設け、支部会員からの寄付を募集し、記念誌の発行、功労者の表彰等を行いました。この席上に、本部から臼田貞夫前校友会会長、当時の田中英壽常務理事をお迎えし、田中先生には記念講演をお願いし、盛会に式典を終える事ができました。

振り返ってみると50年前の日本の社会は戦後の混乱が治まらず、日常生活に事を欠くといった時代、組織づくりには大変なご苦労があったようです。骨格づくりは川崎市役所桜友会幹部と市内にあるプレス工業株式会社(当時の鈴木正一社長)の同窓が軸となり、支部長に鈴木社長が就任し、早速会員の加入促進等、当時の様子が会員に伝えられています。

鈴木支部長の後を継いだ同じくプレス工業株式会社の柳井清澄社長が、長きに渡り支部運営にあたってきましたが、平成16年7月健康上の理由で退任、現在の深瀬幹男顧問(元川崎市助役)が後任の支部長となりました。

支部の概況は会員約200名、総会等の会議の出席者は約70～80名、例年新年会、7月に総会を行っています。今年7月19日の総会には大学から小嶋勝衛総長・理事長と若女井校友会本部長がご臨席下さり、花を添えていただきました。久しぶりに理工系出身の総長のご来臨ということで、理工系校友は親近感もあり殊のほか張り切り、会も盛り上がりました。

この席で小嶋総長は「日本大学の新しい教育理念、自主創造」という、現状の社会に最も必要な考えを教育に取り組んでいるという、感銘深いお話をいただきました。支部活動で一番盛り上がるのは、何と云っても新年2日～3日に行われる箱根駅伝です。

往路は1区の最終地点で、復路は10区最終区で日大カラーとして親しまれているピンク(さくら)色の幟旗を約50本立て、選手を応援



深瀬 幹男支部長



平成19年度川崎支部総会

しています。毎年この応援の先頭に立っているのが、川崎歯科校友会の先生方であり、支部の名物になっています。

我が支部の今後の活動の目標とするところは、校友相互の情報交換と親睦が主となりますので、総会等には医師、歯科医師、建築、土木、市議会議員、地域社会の団体役員等それぞれのグループの代表者等が近況を報告し合い、相互の理解と連携を深めています。

これからも日本大学の諸方針を参考に支部活動を進めると同時に、校友が川崎市各地で益々発展し、社会のお役に立つことができるよう努めて参りたいと存じます。

(日本大学校友会川崎支部支部長 深瀬 幹男)

北海道夕張市が財政破綻したというニュースはまだ耳に新しい。今年の3月に財政再建団体となり、353億の財政赤字を18年かけて再生しなくてはならない。この過酷な状況の中、先頭に立って夕張市民を率いるのは4月に市長に就任した藤倉肇氏。昭和41年に本学経済学部を卒業した。

「運命とは面白いもの。会社を退職して、さて女房と温泉めぐりでもしようかと話している時でした。市長選の立候補者を見て、これは俺がやらなくては…!という強い思いにかられたのです。若き日の情熱が爆発しました。」

親子三代、炭坑の街・夕張市に住み、藤倉氏は炭坑住宅で育った。高校卒業の頃は、ちょうど炭坑産業のピーク。大学進学をのりこぎ抑え、両親の薦めで財政豊かな夕張で就職した。しかし、どうしても学問の夢が捨てきれず、半ば勘当同然で上京。昭和36年10月早朝、布団一組を担ぎ汽車に乗る自分を、母親が見送る悲しい出発だった。

負けてたまるか! の反骨精神は4年間の夜学生生活があつてこそ

「昼間は神奈川県平塚のタイヤ工場働き、夜は水道橋にある経済学部の夜学へ通う毎日。給料は学費と寮に消えるので、授業終了後にバイトもした。」



首長に聞く



夕張市長
藤倉 肇さん
昭和41年経済学部経済学科卒業

(ふじくら・はじめ) 昭和16年夕張市生まれ。同市高松の炭坑住宅で育つ。夕張北高等学校卒業後、両親の薦めで夕張炭坑生協に勤務するが、大学に通う夢を捨てきれず昭和36年単身で神奈川県へ。横浜ゴムのタイヤ工場に勤務しながら本学経済学部経済学科(二部)に通い41年に卒業。その後は営業職に転じ、全国各地へ転勤。業績の思わしくない会社の再建を頼まれるようになる。平成3年北海道へ戻り、十勝ヨコハマタイヤの社長に就任。13年には北海道ヨコハマタイヤ販売の社長に。18年退社後、夕張市長選に立候補し当選。353億の赤字をかかえ、平成19年3月より財政再建団体となった夕張市の再建に、市民一丸となって取り組む。

一度きりの人生、「志」を高く持て。「志」は失敗を成功に導くチカラ
『なにくそ、負けてたまるか』でピンチを最大のチャンスに変える

疲れるし腹は減るし、辛いなんてもんじゃない。雨の日も風の日も、傘も差さずに泣きながら自転車をこいだ事もあったよ。でも「何くそ! 負けてたまるか」と、4年間頑張り通したんです」

サービスエンジニアになり、タイヤのアフターフォローをしながら注文を取る藤倉氏は、やがてタイヤを何千本と売る凄腕営業マンとなっていく。そのうち重要部門に配属され、潰れそうな会社の再建を任されるようになった。故郷の北海道へ戻り、北海道ヨコハマタイヤ販売の社長に就任したときは、業績全国ワースト2位だった会社を全国ナンバーワンの優秀企業にまで変貌させた。

民間企業で培った豊富な経験を、66歳の今、市長という新たなポジションで再挑戦しようとしている。

「辛かった4年間の夜学生生活が、今の原動力です。どん底を経験すると、あの頃に比べたら…と頑張れるもの。物質的に苦勞することが少ない現代でも「心」を鍛えることは出来るはず。それには本を沢山読むことですね。僕が若い世代にアドバイスするなら、一度きりの人生、「志を高く持て」です。失敗したっていいじゃない、そこから立てばいいんです。失敗も全て成功に繋がっているのだから」



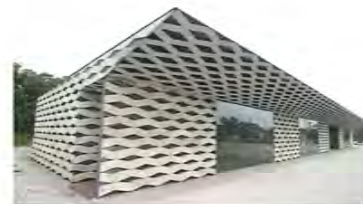
まだまだ修業中

大好きな地元だから、みんなに喜んでもらえる町づくりに貢献したいんです



高根沢町役場 都市整備課
渡邊 正道さん
(平成16年工学部土木工学科卒業)

昭和56年栃木県生まれ。橋やダムなど、人の役に立ち、後世まで残る構造物の建築に携わりたいという思いを胸に、県立氏家高校から本学工学部土木工学科へ進学。在学中は、衛生工学研究室の中村玄正教授に指導を仰ぎ、上下水道や水環境保全などをテーマとした研究に打ち込んだ。卒業後は、高根沢町役場の都市整備課に勤務。大学で専攻した土木工学の知識を活かし、地元で貢献したいと願っている。



宇都宮市に隣接し、米作を中心とした農業が盛んな高見沢町は、皇室の食料を生産する御料牧場の用地とされるほど、自然の恵みが豊かな町。渡邊さんにとって大切な故郷だ。

大学生を送った際は、地元を離れて郡山で一人暮らしをしていたが、卒業を前に就職を考えた際、地方公務員となって、慣れ親しんだ地に戻ることを決めた。建築系の一般企業に属して受注する立場になるより、発注する側に立つことで、より地元で貢献できると考えたのだという。

「昨年は、新しく町道を作る業務を手がけました。自分が発注したものが、後々まで形になって残り、みんなが喜んでくれる。そうしたことにやりがいを感じます」

地方都市では、住民と公務員の距離は近い。役場が提供する住民サービスも、人と暮らしに密接したものになる。渡邊さんも、勤め始めてからその身近さに驚いたという。

「たとえば、道路の小さな陥没などは業者を頼まずに自分たちで処置するんです。そんなとき、住民の方からお礼の電話をいただいたりすると、やはり嬉しいですね」

現在、高根沢町では中心市街地活性化プロジェクトが進行中。渡邊さんも、プロジェクトの一員として忙しい毎日を送っている。担当業務は、JR宇都宮線(東北本線)宝積寺駅東西連絡通路の

整備事業。駅利用者の7割が駅東側住人であるにも関わらず、出入口は西側にしかないという不便な状況を改善すべく、踏み切りを横断しなくても駅を利用できる橋上通路を建設し、駅東側の活性化を図ろうという狙いだ。

すでに、駅東口には「ちよ蔵広場」と名づけられた駅前広場の建設も進んでいる。この広場は、自然と融合した建築のあり方を追求する建築家・隈研吾氏が設計。壁面には、かつて米蔵に使われた古い大谷石を、床材には、農家にとっては廃棄物にすぎない「もみ殻」を再利用。米処・高根沢ならではのエコロジカルな発想と斬新なデザインで、早くも注目を集めているという。駅舎完成の暁には、集客の目玉となりそうだ。

「10月には駅舎の使用が始まり、来年の3月には正式オープンする予定です。ぜひ遊びにきてください」

そう言って、笑顔を見せた渡邊さん。建設中の現場を誇らしげに見上げる目は、自分を育ててくれた町の発展に、自らの力を注げる喜びに溢れていた。



こんな
校友も
います

自動車部から法律家へ進んだ 異色の弁護士



弁護士・弁理士
池田 和司さん
(昭和38年法学部法律学科卒業)

(いけだ・こうじ) 昭和16年東京都生まれ。本学在学中は保健体育審議会自動車部に所属。昭和42年4月法学専攻科に入学し、同年9月司法試験第2次試験合格。銀座法律特許事務所経営。平成元年第一東京弁護士会副会長、2年日本弁護士連合会常任理事、14年第一東京弁護士会弁護士推薦委員会委員長、16年第一東京弁護士会常議員会議長、現在、本学法科大学院非常勤講師、日大法曹会及び法学部校友会の各副会長など。

高級ブランドが建ち並び銀座の一角に、池田和司さんの経営する銀座法律特許事務所はある。知財訴訟などの業務をこなしながら、本学大学院法務研究科の非常勤講師も務め、多忙な日々を送る池田さんだが、大学一年生の時は、本学農獣医学部(現在の生物資源科学部)だった。機械モノが好きで、保健体育審議会自動車部に入部。「クルマが一般的でない時代、自動車部に入ればクルマに乗れるだろうと(笑)。ただ、部室と学部が遠かったため、二年生から神田の部室に近い、法学部法律学科に転部したのです」

ある時、先輩に「司法試験は君が考えているほど簡単ではない」と言われ、その一言が当時の池田さんを奮い立たせた。「先輩の鼻を明かすために、自分が司法試験に合格したら面白い、と遊び心に思ったのです」

学部卒業後の遅いスタートだったが、そこから司法試験に向かい猛勉強が始まる。司法試験を志す人たちのための「沼研究会」で、特別講義を受ける毎日が続いた。

それから4年、26歳の時に3回目司法試験に合格。「初めは、こんなに大変だったのかと後悔の念ばかりでしたが、先輩の鼻を明かしたい一心で(笑)、必死で学びましたね」

本学はまもなく創立120周年を迎えるが、体育会の学生が司法試験をパスし、弁護士になるのは未だ珍しい存在。

「真剣の前に不能なし」。何事も真剣にトライすれば、努力は裏切らない」学生の頃に教わったその言葉を、今は池田さんが講師として若い人たちに伝えている。



前列左が学生時代の池田さん

こんな
校友も
います

歯科医師を続けながら復活させた 亡き父のラーメンの味



歯科医師/ラーメン店経営
信田 有一さん
(昭和57年松戸歯学部歯学科卒業)

(のぶた・ゆういち) 昭和33年旭川市生まれ。57年松戸歯学部歯学科卒業後、本学歯学部障害者歯科学教室へ入局。60年退局後旭川へ戻り、61年「ユウ歯科クリニック」を開業。亡くなった父親が経営していたラーメン店の味を復活させたいと、昨年4月、念願の「らぁめん食堂 NOBU一五条天金」をオープン。歯科医師とラーメン店主の二足のわらじを履く。日本障害者歯科学会認定医。

「文系でしたが、全道模試の合格率が9割。父の薦めで松戸歯学部部に挑戦しました」と話す信田有一さんの父親も本学経済学部出身で、スキー部でノルディックで活躍した。卒業後は本学歯学部障害者歯科学教室で、障がい者の歯科治療について学ぶこととなった。

「障がいの度合いによりますが、こちらの指示通りに動くことは難しい。トレーニングをして慣れてから、治療をします」。一般外来の他、障がい者の治療にも力を入れる信田さん。治療時間は健常者の倍以上かかるが、なぜ積極的に行うのかを聞いてみた。「両親の祖父が松葉杖だったこともきっかけですが、正しく噛めなければ、血液に栄養が行き渡りません。歯は病気を防ぐための1番目の消化器官。しかし障がい者の方達は、適切な治療を受けられずにいることが多い」。そんな信田さんのところには、障がい者やその家族たちが、噂を聞きつけ遠くから訪ねてくる。気づくと診察室には障がい児ばかり、ということもあるそうだ。

平成3年、「ラーメンの天金」を営んでいた父親が他界してしまう。1年後「やはり親父の作る、昭和の懐かしいラーメンの味を復活させたい」という気持ちが膨らみ、診療の合間を使ってラーメンの試行錯誤が始まった。昨年、仲間たちの協力もあり、旭川に「らぁめん食堂 NOBU一五条天金」を開店。父親の味を追って15年目、ようやく念願のラーメン店をオープンさせることができた。

「食べ物溢れる世の中、『おいしいね』と言ってもらえる時が一番嬉しい。歯科治療も同じです。自分が出来ることで喜んでもらえる、これからも感謝のキャッチボールを続けていきたいですね」



イベント情報

(写真提供 日本大学新聞社)

12月以降の保健体育審議会所属各部の試合日程をお知らせします。
 詳しい日程や会場未定の試合もありますので、
 詳しくは保健体育事務局(電話03-5275-8278)までお問い合わせください。



競技部	日付	大会名	場所	
陸上競技部	1/2 ~ 1/3	東京箱根間往復大学駅伝競走	東京都・神奈川	大手町~芦ノ湖
剣道部	12/8	関東学生新人戦大会	東京都	東京武道館
相撲部	12/9	全日本選手権大会	東京都	国技館
卓球部	12/2 ~ 12/3	全日本学生選抜選手権大会	神奈川県	横浜文化体育館
	12/23 ~ 12/24	全日本大学対抗選手権大会	//	横浜市磯子スポーツセンター
スキー部	12/20 ~ 12/23	全日本学生チャンピオン大会	北海道	中川郡音威子府村チセネシリ
	12/16	吉田杯ジャンプ大会	//	なよろピヤシリシャンツェ
	12/17 ~ 12/18	全日本選手権大会	岩手県	岩手県営スケート場
	12/24	全日本コンバインド大会	北海道	なよろピヤシリシャンツェ・なよろ健康の森
	12/25 ~ 12/27	全日本クロスカントリー音威子府大会	//	音威子府クロスカントリーコース
	1/4 ~ 1/10	全日本学生アルペンチャンピオン大会	長野県	西館山スキー場
	1/7	伊藤杯全日本チャンピオンレース	北海道	札幌白旗山クロスカントリー競技場
	1/11 ~ 1/17	全日本学生選手権大会	新潟県	妙高市クロスカントリーコース・赤倉温泉スキー場
	1/27	全日本選手権大会ジャンプ競技	北海道	宮の森ジャンプ競技場
	1/26	全日本選手権大会ノルディックコンバインド競技	//	宮の森ジャンプ競技場・札幌白旗山クロスカントリー競技場
2/10 ~ 2/13	全日本選手権大会クロスカントリー競技	山形県	秋山クロスカントリーコース	
3/2 ~ 3/5	全日本選手権大会アルペン競技	長野県	西館山スキー場	



競技部	日付	大会名	場所	
スケート部	12/26 ~ 12/28	全日本フィギュアスケート選手権大会	大阪府	なみはやドーム
	12/22 ~ 12/23	全日本スプリント選手権大会	北海道	釧路市柳町スピードスケート場
	12/26 ~ 12/28	全日本フィギュアスケート選手権大会	大阪府	なみはやドーム
	1/6 ~ 1/9	日本学生氷上競技選手権大会	北海道	苫小牧ハイランドスケートセンター
	1/11 ~ 1/13	関東学生氷上選手権大会	山梨県	セイコオーバル
	2月予定	全日本アイスホッケー選手権大会	北海道	釧路市内
バスケットボール部	1/2 ~ 1/8	全日本総合選手権大会	東京都	東京体育館他
レスリング部	12/21 ~ 12/23	天皇杯・全日本選手権大会	東京都	代々木第2体育館
フェンシング部	12/13 ~ 12/16	全日本選手権大会	大分県	日田市総合体育館
	1/11 ~ 1/12	ジュニアオリンピックカップ大会	茨城県	水戸市青柳公園市民体育館
ハンドボール部	12/20 ~ 12/24	全日本総合選手権大会	東京都	駒沢屋内球技場他
応援リーダー部	12/1 ~ 12/2	全日本学生選手権大会	東京都	国立代々木競技場第1体育館

●日本大学全国校友大会を開催

今年も、日本大学全国校友大会が平成19年11月12日午後6時から、東京ドームホテル（東京都文京区）「天空」で開かれた。小嶋勝衛総長・理事長をはじめ全国の日本大学卒業生が一堂に会し、大学と校友との絆を深める目的で、また、先般行われた参議院議員選挙、統一地方選挙の結果、当選された方々のお祝いおよび激励を兼ねて開催されたもので、校友や大学関係者約850人が出席して行われた。

TBSアナウンサーの柴田秀一さん（昭和56年法学部政治経

済学科卒業）の司会で進行された。校歌斉唱の後、岡田正美大会実行委員長の開会の辞に続き、大会会長である田中英壽校友会会長、来賓の小嶋勝衛総長・理事長の挨拶、今年当選した参議院議員・市長の紹介と続き、園田博之衆議院議員（自由民主党政調会長代理）による乾杯の発声で懇親に入った。応援リーダー部「DIPPERS」によるチアリーディングのアトラクションも披露され、会場の雰囲気盛り上げるのに一役買った。田村榮一大会実行副委員長による閉会の辞でお開きとなった。



田中英壽大会会長挨拶



来賓挨拶する小嶋勝衛総長・理事長



ステージ上で紹介される来賓の参議院議員・市長



乾杯の挨拶をする園田博之衆議院議員



司会のTBS柴田アナウンサー



「DIPPERS」によるチアリーディング

影絵の楽しさを伝え続け、45年目の緑綬褒章



影絵グループ「あけびの会」代表
綾部 東洋子さん
(昭和41年芸術学部演劇学科卒業)

(あやべ・とよこ) 昭和18年中国北京生まれ、福岡県育ち。昭和38年、仲間たちと共に影絵グループ「あけびの会」(社会福祉施設奉仕団体)を結成。山形県のへき地の子ども達との演劇交流を機に、ボランティアでの影絵公演活動をはじめ。著書に「あけび一座青春記」(ホンゴー出版)がある。

9月8日に行われた授章を祝う会。影絵グループ「あけびの会」のこれまでの活動について、綾部さんに伺った。

影絵グループ「あけびの会」の代表を務める芸術学部校友会副会長の綾部東洋子さんが、今年春、緑綬褒章を受章した。

当グループは、綾部さんが本学芸術学部演劇学科一年の頃に、友人6名と結成。以後44年間、幼稚園や福祉施設などで影絵を披露し、公演回数は400回を超える。13年前から行っている海外での活動は、ニュージーランド、トルコ、リトアニアなど5ヶ国10公演。影絵の楽しさを伝え続けて45年目の春、それらの功績が高く評価された。

「あけびの会」の活動は、一冊の本との出会いから始まった。「山形大学教育学部教授だった溝口謙三さんの著書「へき地の子ども」を読み、是非へき地の子どもたちに演劇を見せてあげたいと思ったんです。著者の溝口さんに手紙を出し、学校を紹介していただきました」と綾部さん。人形劇紙芝居など多数の演劇を披露する中、ひときわ子どもたちを引きつけた芝居が、影絵だった。目を輝かせながら観てくれる子どもたちのために、綾部さんらは毎夏、山形県南部にある小中併設校へと足を運んだ。

本学を卒業した綾部さんは、こうして出会った子どもたちとの交流をきっかけに、首都圏の養護施設などで影絵の公演を続けるようになった。

プロと違い、少ない資金の中、創意工夫をしながら活動を続ける「あけびの会」。「当初の私は公園2DKに住む普通の女性で、それが影絵のお姉さんに変身するという演じ分けが楽しかった。それは今も同じ。なぜボランティアでここまでやるのか、と言われるますが、ただ純粋に楽しいから続けているのです」と綾部さんはエネルギーに話してくれる。「影絵は、暗闇の中に照らし出されるファンタジックな夢の世界。年齢や性別に関係なく、みんなが楽しめる演劇です」

現在は公演のかたわら、公民館などで10グループに影絵を教えている。



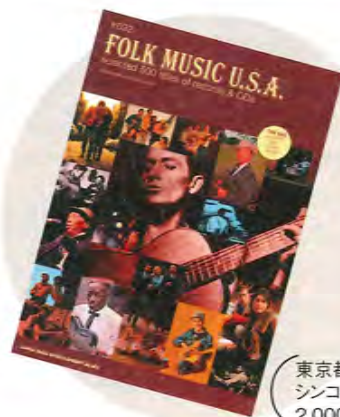
『イラストでわかる脳卒中ケア事典』

飯田 達能(昭和59年医学部医学科卒業) 他編集

本書は、脳卒中(脳梗塞、脳出血)にかかった人やその家族にとって役立つ情報を、わかりやすく簡潔に、イラストをメインにビジュアルに表現した書籍。脳卒中は、日本人の死因の第3位、しかも壮年期以降の日本人に発症する病気としては最も患者数が多い。幸い一命を取り留めても、深刻な後遺症が残ることが多いのが、この病気の特徴。病院で行われる治療や、後遺症が残ったときのリハビリテーション、退院後に必要となる介護のノウハウ、そして社会復帰の準備から再発作の予防のためのレシピ集まで、脳卒中になった人が少しでも快適に過ごせるよう、家族が介護地獄に落ち込まないための知識がこの一冊にまとめられている。

本書の特徴は読みやすさにある。百科事典のように項目ごとに解説し、1項目は見開き単位で構成、しかも解説はすべてのページにわたって、ふんだんにイラストを使って誰にでも分かりやすくしている。ご家族に患者のいらっしゃる方には、是非薦めていただきたい1冊だ。

Book Review
書籍紹介



(東京都千代田区神田小川町2-1
シンコーミュージック
2,000円 税別)

『FOLK MUSIC U.S.A.』

鈴木 カツ(昭和40年芸術学部放送学科卒業) 監修・著
古屋 克己(医学部附属板橋病院医療福祉相談室主任) 他著

戦前の米国南部産にして、60年代に注目・再評価された“流行”音楽。以来、フォーク・ミュージックは、歌い・聴き継がれ、現代へと生き続けている。アメリカの歴史、そして「アメリカそのもの」を映し出す歌、レコードの数々。今やそこへ名を連ねる御大となった「ディラン」をキーワードに読み解く。アメリカのフォーク・ミュージック、究極のディスクガイドが誕生。1950～1970年代までのアメリカン・フォーク・ミュージックのレコードを、500枚ジャケット写真入りで紹介した画期的な本書は、ポップ・ディランの音楽を掘り下げたり、そのルーツを知りたい方、アメリカ音楽のルーツを知りたい方には是非お薦めしたい。



(東京都渋谷区千駄ヶ谷4-9-7
幻冬舎ルネッサンス 1,200円 税別)

『マイスターのドイツビール案内』

高橋 康典(平成5年国際関係学部国際文化学科卒業) 著

平成7年の地ビール解禁後、東日本の地ビールメーカーに勤務、11年に単身ビールの本場ドイツに渡り、北バイエルンのビール醸造所で職業研修を受けた後、デーメンスマイスター学校に入学。14年にはドイツ手工業会議所ミュンヘン・オーバーバイエルン地区のブラウマイスターの称号を得た著者が、ドイツで学んだビール造りや、マイスター試験に合格するまでの知見、ビールやドイツの意外な習俗などについてまとめた本。ビール本来の魅力をたっぷり紹介。ビールを知ることで、ドイツビールを始め、多くのビールを楽しんでもらう上での参考になりたい1冊だ。

このコーナーは、会員からのお手紙やご意見などを紹介します。文章に限らず、写真や詩、俳句、エッセイ、本誌で紹介したお店やお宿を訪ねた感想なども募集しています。下記事務局までお寄せください。

いつも「桜縁」を読ませていただいています。同窓生のことや、母校のいろいろなことを知ることができて、とても貴重な会報誌であると楽しみにしています。

学校のことが懐かしく、時々、神保町界隈を歩いたりしていますと、40年も前の自分の姿が見えるような気がします。体育会の卓球部にお世話になり、途中体調を崩し、文理の哲学科から教育学科に転科をしたり、6年もかかりやっと卒業をいたしました。武蔵野台のプレハブ校舎、雨音のひどい中、担任の瀬在先生の訴えていた学生運動に対するお話が、今も忘れられません。赤坂先生、深田先生…特に深田先生の「君たちが毎日飲むコーヒー代で、岩波の文庫本が1冊買えるよ。どっちが君たちにとって価値があるのかな」と淋し気におっしゃったことなども印象的でした。

体育会の卓球部では、ユニフォームなどすべて学校からいただいております。とても恵まれていたと思います。卓球部のために何一つしたことがありませんが、母校そして卓球部のご発展を心よりお祈りいたしております。

(高野京子・昭和50年文理学部教育学科卒業/
東京都墨田区在住)



○インフォメーション

◎本誌への情報提供、ご意見、お問い合わせは…
この会報は1人でも多くの校友の皆さんを紹介し、校友の皆さん同士のコミュニケーション(縁)を深めていただきたいと思います。お店やお宿を営んでいる校友に限らず、ユニークな先輩や後輩がいるとか、自分を紹介してほしいなど、自薦他薦を問いませんので、事務局までお知らせください。

◎住所・勤務先が変わったら…
住所、勤務先等に変更がございましたら、必ず事務局までお知らせください。電話、FAX、メールいずれの方法でも結構です。

◎会員証を紛失されたら…
会員証を紛失された際は事務局までご連絡ください。再発行させていただきます。

◎新規会員を紹介したい…
新規会員をご紹介くださる方は、事務局までご連絡ください。資料を送付させていただきます。

- 1 封筒、ハガキで
〒102-8275
東京都千代田区九段南4-8-24
日本大学校友会本部事務局校友課「桜縁」係
- 2 電話、ファクシミリで
TEL. 03 (5275) 9300
FAX. 03 (5275) 8330
- 3 電子メールで
E-mail: koyu@nihon-u.ac.jp

編集後記

広報委員会委員長・久保 進

先祖が加賀前田藩の御用鍛冶という鐵さんや、天保4年以前に邦楽器匠として開業していたという鶴川楽器8代目の鶴川さんなどに、伝統と匠の技を継承していくことの難しさなどについてお聞きしました。こうした職業では、後継者に技をどう伝えていくか、伝統を守るとはどういうことなのか、なかなか困難な問題もあるようです。また、新大関に昇進した琴光喜関のインタビューもいかがでしたでしょうか。相撲界もいろいろとあるようですが、大関には今後も精進され、頑張っは是非とも横綱を目指してもらいたいものです。

桜縁 No.12/2008.1 発行 編集・発行 日本大学校友会
〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24
TEL. 03 (5275) 9300 FAX. 03 (5275) 8330

広報委員会

委員長:久保 進 副委員長:新井 謙寿
委員:内田 章 中村 克夫 石 光 園田 芳生 萩原 正芳 横須賀 靖
石澤 恒男 呉屋 正盛 中島 正博 野澤 達也 鈴木 彰一



まずは電話でお申し込みを

日本大学文理学部 心理臨床センターをご利用ください

心理臨床センターは日本大学文理学部百周年記念館の中にあり、地域に開かれた活動を行っています。小学生から上は70代の方まで、近所に限らず、遠方からも、さまざまな心の悩みを抱えている方が相談に訪れています。開所日は、月・火・水・土曜日となっています。センターには、相談に使う6つの部屋を完備。相談内容に合わせて、専門の臨床心理士が適切に対応しています。民間の施設では50分で10,000円ほどかかる心理カウンセリング料金も、50分2,000円と格安になっています。校友のみなさんも是非ご利用ください。

★一人で悩まず相談しよう!★

育児の悩み 子どもの悩み 対人関係の悩み
ストレス ご自身の悩み 不安・緊張・ゆううつ
高齢化にともなう悩み 家族の悩み など…



プレイルームも完備



箱庭療法専用ルーム

カウンセリングルーム

日本大学文理学部心理臨床センター

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水4-2-50

TEL 03(5317)9754 (直通)

FAX 03(5317)9773

*相談は全て予約制です。事前に電話でご予約ください。

◎メールアドレス cpcenter@chs.nihon-u.ac.jp

◎ホームページ <http://www.psych.chs.nihon-u.ac.jp/~center/>

案内図



下高井戸駅(京王線・世田谷線) 桜上水駅(京王線)から徒歩10分

あなたと大学の懸け橋になります

日本大学新聞

「日本大学新聞」は1921年に
創刊され、86年を迎えました。
各学部のニュースや、スポーツ・
サークル活動、特集や連載企画
が満載。学部、校友や付属校を
つなぐ「日大新聞」をぜひご愛
読ください。



2008年
4月発行
予定!!

日大スポーツ'07

グラフ&ストーリー

1冊 / 500円
(送料込み)

縮刷版

4年間の大学の動きがひとめで分かる
(2004年4月～2008年1月)

1冊 / 2,000円
(送料込み)

第24回 日大文芸賞

小説、評論、エッセー等未発表のものに限ります。

文芸賞=1編 (副賞 30万円)
優秀賞=1編 (同 10万円)
佳作=3編 (同 5万円)

- 資格 本学学生、教職員、校友
- 締め切り 2008年3月31日 (当日消印有効)
- 枚数 50枚以内 (400字詰め原稿用紙)
ワープロの場合は、マスのない
A4版用紙に縦20字×横20行で縦
書きに印字したもの
- 記入事項 氏名、住所、電話番号、性別、年齢、
学部・学科・学年 (職業)

お申し込み・お問い合わせ先

日本大学新聞社 E-mail : nup.info.news@nihon-u.ac.jp

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 TEL : 03-5275-8144 FAX : 03-5275-8331

日大病院のご案内



板橋病院

所在地/〒173-8610
東京都板橋区大谷口上町30-1
TEL (03) 3972-8111 (代)
担当/庶務課
<http://www.med.nihon-u.ac.jp/hospital/itabashi/>
開設年/昭和10年
病院長/澤 充
診療科目/ 34 診療科
その他専門外来多数あり(助産師外来他)
病床数/ 1,037床
教職員数/ 1,290名
看護配置/一般病棟実質配置10:1
特殊施設/救命救急センター、
総合周産期母子医療センター



駿河台病院

所在地/〒101-8309
東京都千代田区神田駿河台1-8-13
TEL (03) 3293-1711 (代)
担当/庶務課
<http://www.med.nihon-u.ac.jp/hospital/surugadai/>
開設年/大正15年
病院長/小川 節郎
診療科目/ 19 診療科
病床数/ 409床
教職員数/ 750名
看護配置/一般病棟実質配置7:1



練馬光が丘病院

所在地/〒179-0072
東京都練馬区光が丘2-11-1
TEL (03) 3979-2488 (直)
担当/庶務課
<http://www.med.nihon-u.ac.jp/hospital/hikari/>
開設年/平成3年
病院長/高橋 滋
診療科目/ 17 診療科
病床数/ 344床
教職員数/ 600名
看護配置/一般病棟実質配置7:1

看護師募集 待遇と勤務(3病院共通)

- ◆募集職種/看護師、保健師、助産師、パート看護師(パートに関しては別途お問い合わせ下さい)
- ◆応募資格/有資格者および平成20年3月に卒業予定の方
- ◆応募方法/有資格者:履歴書(写真貼付)、免許証の写し
卒業予定者:履歴書(写真貼付)、成績証明書
- ◆選考方法/書類選考、面接等
- ◆昇給賞与/年1回(4月)/年3回(平成18年度実績:6.58ヶ月+38,500円)
- ◆勤務体制/変則2交替制(一部を除く)
- ◆諸手当/住宅手当、家族手当、通勤手当、病棟勤務手当、時間外手当、夜間勤務手当
- ◆休日休暇/平成19年度年間休日計116日(交代制勤務者)、日曜、祝日、日本大学創立記念日(10月4日)、病院開院記念日(6月1日)、年末年始、夏期休暇等、その他

慶弔休暇、年次有給休暇等あり

- ◆退職金制度/有、勤続1年以上の場合支給
- ◆保険制度/健康保険、共済年金、雇用保険、労災保険
- ◆看護師寮/ワンルームタイプ 月額25,000円 冷暖房完備 バス、トイレ付
- ◆交通案内/
<板橋病院>JR「池袋」駅よりバス約17分「日大病院前」下車、または東武東上線「大山」駅より徒歩約12分
<駿河台病院>JR中央線「御茶ノ水」駅徒歩3分、東京メトロ丸の内線「御茶ノ水」駅徒歩3分、東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅徒歩3分
<練馬光が丘病院>都営地下鉄大江戸線「光が丘」駅下車、A-2出口徒歩5分、東武東上線「成増」駅および東京メトロ有楽町線「地下鉄成増駅」より西武バス「日大病院」または「光が丘駅」行きにて「旭町南地区区民館」降車、徒歩5分
※詳細は病院のホームページをご覧ください